

# 若槻禮次郎コレクション

## ——宮中行事の引出物・ボンボニエール——

精巧な細工を施した銀製の小さなお菓子入れ「ボンボニエール」は、皇室が主催する饗宴<sup>きょうえん</sup>に際しての引出物です。明治20年代から引出物として採り入れられ、現代でも皇室の慶事を記念する品として引き継がれています。

松江歴史館では、ボンボニエールを11点所蔵しています。これらのボンボニエールは、松江市出身の総理大臣である若槻禮次郎<sup>わかつきれいじろう</sup>(1866～1949)が遺したものです。禮次郎のボンボニエールは、大正14年(1925)から昭和10年(1935)の間で催された行事のもので、禮次郎が政治家として活動していた時期と重なります。禮次郎はボンボニエールを皇室から下賜<sup>か</sup>されたものとして、饗宴の献立とともに大切にしていました。

今回の展示では、禮次郎が遺した小さな工芸品ボンボニエールを展示し、銀細工という日本の伝統的工芸を紹介します。



箱形梅散文ボンボニエール

大正14年(1925)1月13日  
高松宮宣仁親王成年式  
刻印「三越製 純銀」



晩餐会献立(明治43年5月6日)

饗宴<sup>べつかん</sup>から始まり、雛鳥の蒸焼き、独活<sup>うど</sup>のチーズ焼等がメインディッシュの献立である。この日、允子内親王<sup>のぶこ</sup>と朝香宮鳩彦王<sup>あさかの</sup>の結婚祝宴が催されており、その晩餐会であろう。禮次郎は渡された献立に「同時ニ御銀製菓子器を賜ふ」と書く。「銀製御菓子器」つまりボンボニエールをもらったとわざわざ記している。

(若槻家資料 松江歴史館寄託)



じきろう  
食籠形ボンボニエール

昭和2年(1927)2月16日  
大喪関係員御慰勞晩餐  
刻印「服部製」

ボンボニエールの年代特定等は、学習院大学史料館の長佐古美奈子氏の協力を得ました。記して感謝申し上げます。

資料は注記のない限り、松江歴史館所蔵です。



### 宝船形ボンボニエール

昭和 10 年(1935)4 月 6 日

満州国皇帝来日宮中晩餐

刻印「三越 純製」

※「帆」と「宝物」が欠落



### 入隅箱形鳥居杉木立文ボンボニエール

昭和 10 年(1935)12 月 4 日

みかさのみやたかひと  
三笠宮崇仁親王成年式

刻印「純銀三越」



### 香炉形ボンボニエール

日本らしい意匠を凝らした香炉内に金平糖などを入れて配られた。このボンボニエールは比較的小さな祝宴用に、あらかじめ多数を作り置きしその時々で配布したものである。



### かさし 挿華(昭和大礼)

昭和 3 年(1928)11 月 16 日

昭和大礼大餐第一日



### 雅楽太鼓形ボンボニエール

昭和 3 年(1928)11 月 17 日

昭和大礼大餐第二日

刻印「純銀服部製」



### 釣灯笼形ボンボニエール

昭和 3 年(1928)11 月 17 日

昭和大礼大餐第二日夜宴

刻印「☆」の中に「S」、「純銀」



### 昭和大礼大 餐 だいきょう しえん 賜宴献立 (昭和 3 年 11 月 17 日)

昭和天皇の大礼式の献立、大礼式で配布されたボンボニエール 3 種である。挿華は古来より天皇の即位に際して飾られた造花で、そのミニチュアが下賜された。若槻家の挿華には花入が附属するが、これは下賜品ではなく若槻家で詠えたものであろう。

(若槻家資料 松江歴史館寄託)